

事業名称	「世界の記憶」を核とした炭坑文化の地域資源化事業		
実行委員会	田川市世界記憶遺産活用活性化推進委員会		
中核館	田川市石炭・歴史博物館		
	住所	〒825-0002 福岡県田川市大字伊田 2734 番地 1	
	TEL	0947-44-5745	FAX 0947-44-5745
	ホームページ	<a href="https://www.joho.tagawa.fukuoka.jp/list00784.html">https://www.joho.tagawa.fukuoka.jp/list00784.html</a>	
構成団体	田川郷土研究会、田川市立図書館		
事業開始時点の課題分析	<p>平成 23(2011)年 5 月、田川市石炭・歴史博物館(以下、「市博物館」という。)が収蔵する「山本作兵衛コレクション」が、日本で初めて、ユネスコ「世界の記憶」(世界記憶遺産)に登録された。登録直後は市博物館への関心が高まって、従来の 7.5 倍にあたる約 15 万人の入館者が訪れ、地域振興の起爆剤として大きな期待が寄せられた。田川市では検討委員会を設置して、教育や観光等に資する地域資源として幅広い活用策を計画した。しかしながら、登録年を頂点とし、以降、漸次減少していく市博物館の入館者数は、日本初の「世界の記憶」登録が一過性のブームであり、関心の低下は地域資源としての活用が未だ道半ばであることを示唆する。</p> <p>市博物館ではこれまで、「世界の記憶」を題材に多言語化等による国際交流拠点形成や子ども学芸員育成など、新たな価値を創出し機能の充実を図った。一方で、市博物館を取り巻く地域では、「世界の記憶」が有効な資源であるという認識が低下したため、登録当初に寄せられた期待が薄れている。博物館の機能充実と関心の低下が反比例したことは、市博物館が受動的に入館者を待つのみであったと反省しなければならない。</p> <p>加えて、昨今のコロナ禍により、市博物館や地域はこれまでにない打撃を受けた。市博物館における市民向けのイベントは縮小を余儀なくされ、令和 2 年度の入館者数も開館以来の底値を記録する見込みである。生活様式が変容した地域社会では、もはやブームが去ったからという言い訳だけでは済まされず、新しい活路見出さなければ、後退に歯止めがかからない。</p>		
事業目的	<p>令和 3(2021)年は「山本作兵衛コレクション」が「世界の記憶」に登録されて 10 年を迎える。コロナ禍で変容する時代に新しい活路を見出すためには、この節目の年を大きな契機として捉え、むしろ、「世界の記憶」所蔵館である市博物館が能動的に地域へ働きかけることが肝要である。そうして、地域が「世界の記憶」を資源として再度認識し、10 年前の登録時の期待感を取り戻して、様々な分野で活用し得る土壌の形成が可能となる。</p> <p>具体的には、①市民参加の博物館、②地域内外の連携、③教育・観光等への活用という 3 つの視点を、登録 10 周年を契機とした市博物館の新しい射程とする。①は、市博物館の展示に市民が参画することで、市博物館をより身近な存在として意識を高める。②は、「山本作兵衛コレクション」を横断的なテーマとし、市内の各施設が連携することで、市民の関心を高める。また、地域外(福岡県内)の各館と連携し、共働して「山本作兵衛コレクション」を活用することで、田川市のみならず、より広範囲の地域において、「世界の記憶」の価値を認識する。①・②によって高められた「山本作兵衛コレクション」の地域資源としての価値は、③の視点のように教育や観光分野に出力される他、様々な分野で応用可能な地域資源であることが再度認識される。</p>		

<p>事業概要</p>	<p>上記の方向性及び目的を踏まえ、登録 10 周年を契機とした「世界の記憶」を核とした炭坑文化の地域資源化事業として、下記の事業を実施する。</p> <p>(市民参加の博物館)</p> <p>市民及び入館者が投票して展示作品を決定した「山本作兵衛コレクション」炭坑記録画の原画を、「世界の記憶」登録 10 周年記念企画展として春と秋に開催する。あわせて、小学生が作品解説を行う「子ども学芸員」を育成する。また、「世界の記憶」登録から 10 年のあゆみを振り返る記念誌を刊行する。</p> <p>(まちなか展覧会)</p> <p>市博物館、田川市美術館、田川市立図書館の 3 館が連携して「山本作兵衛コレクション」をテーマとする展示及びイベントを開催するとともに、市内小中学校と連携して学校内で展示や ICT を活用したワークショップを行う「学校博物館」を実施する。また、福岡県庁及び北九州空港、市内商店街等でも出張展示を行うことで、田川市のまちなかへの導線とする。</p> <p>(交流キャラバン展)</p> <p>コロナ禍で遠方への往来が制限される中、近場で「山本作兵衛コレクション」に触れる機会を設ける。具体的には、県内 5 エリアの主要館である、北九州市立自然史・歴史博物館、柳川市民文化会館等、築上町蔵内邸、九州歴史資料館、大野城心のふるさと館に加え、市博物館と友好館である台湾・新平溪煤礦博物園區にて展示及び講演会を開催する。なお、博物館同士の連携強化や田川市民が市博物館で県内の特色ある歴史に触れる機会とするため、市博物館でも関係館及び市町の展示や講演会を開催する。</p>
<p>実施項目 ・ 実施体系</p>	<p>1 市民参加の博物館</p> <p>(1) 記念企画展</p> <p>①展示品の選定、準備 ②チラシ・ポスターの作成 ③企画展開催（春、秋）</p> <p>(2) 子ども学芸員育成</p> <p>①子ども学芸員プログラムの実施 ②記念企画展解説 ③子ども学芸員修了式（振り返り）</p> <p>(3) 記念誌作成</p> <p>①記念誌の作成</p> <p>2 まちなか展覧会</p> <p>(1) 学校博物館</p> <p>①学校博物館の展示 ②ICT を活用したワークショップ</p> <p>(2) 3 館連携事業</p> <p>① 3 館連携事業の実施</p> <p>(3) 出張展示</p> <p>①北九州空港での展示 ②福岡県庁での展示 ③市内商店街等</p> <p>3 交流キャラバン展</p> <p>(1) 交流キャラバン展</p> <p>①県内 5 か所での展示 ②田川市での展示 ③台湾での展示</p> <p>(2) 交流講演会</p> <p>①県内 5 か所での講演会 ②田川市での講演会 ③台湾での講演会</p>

<p>実施後の 成果・効果等</p>	<p>本事業の目標は、「世界の記憶」登録10周年を契機として、市博物館や「山本作兵衛コレクション」への関心をより高め、地域資源として積極的に活用していく土壌を再度形成することである。登録10周年を迎えた令和3年度もコロナ禍の影響でスケジュール調整が難航したものの、概ね実施することができた。</p> <p>効果の指標は、本事業における連携先の件数が13件を超えることだったが、成果は13件（交流キャラバン展：5件+1件（台湾）、まちなか展覧会：小中学校3校+出張展示4件）であった。増減があった「まちなか展覧会」は、小中学校の当初の目標は5校であったが、これはコロナ禍の影響で学校側の時間がとれなかったこともあるが、学年や内容を変えて実施したため、回数としては1校につき複数回実施した学校もある。また、当初は出張展示を2件（福岡県庁、北九州空港）としていたが、加えて地元商店街と最寄り駅でも行うことができたため、連携先を増やすことができた。</p> <p>このように、登録10周年を契機として、市内外の様々な各所と連携できたこと、すなわち、学校や県庁、空港、商店街などの異業種の施設や機関、団体と連携できたことは、「世界の記憶」である「山本作兵衛コレクション」が観光や教育、まちづくり等に活用できる地域資源としての価値があるという認識を改にさせられた。</p> <p>さらに、「交流キャラバン展」で実施した展示と講演会では、市民の田川市と県内5か所の往来があったため、博物館同士のネットワーキング構築は、博物館だけでなく市民まで波及することがわかった。なお、市博物館の入館者数は、令和2年度（4-2月）が8,507人であったが、今年度（4-2月）は9,907人で前年度比+16%とやや回復している。コロナ禍の影響は今後も継続すると予想されるが、ネットワーキングの構築やICTの活用など、「山本作兵衛コレクション」を地域資源とする新しい取組によって、コロナ禍に左右されない市博物館の様々な機能を発揮していきたい。</p>
------------------------	---

## 【事業実績】

本事業は、田川市石炭・歴史博物館(以下、「市博物館」という。)所蔵の「山本作兵衛コレクション」が日本で初めてユネスコ「世界の記憶」に登録されて10周年を迎える令和3年度に、市博物館及び「山本作兵衛コレクション」への関心をより高め、地域資源として積極的に活用していく土壌を再度形成することを目的として、下記の事業を実施した。

### 1 市民参加の博物館

市博物館の展示等に市民が参画することで、市博物館を身近な存在として意識を高めるため、以下の事項を行った。

#### (1) 記念企画展

「世界の記憶」登録10周年を記念して、「山本作兵衛コレクション」の原画展「Collective Memory」を春(4/27-5/30)と秋(10/26-11/23)に開催した。展示作品は学芸員の選定ではなく、入館者のアンケートによって選ばれた人気上位作品を約30点ずつ公開した。選ばれた1位の作品(坑内ではなく川船輸送)は、市博物館職員が想定できなかった作品だった。また、会期中には子ども学芸員によるギャラリートークを行い、緊張気味に話す子どもたちを、会場の聴衆が暖かく見守った。

#### (2) 子ども学芸員育成

郷土の歴史に関心をもち、田川市の歴史文化を受け継ぐ次世代の担い手育成として子ども学芸員を育成した(全11回)。育成は、田川の歴史と博物館の仕事を学ぶのみならず、学んだことを相手に伝えることに主眼を置いた。

第1回「博物館を知ろう」(8/7)、第2・3回「作兵衛さんや炭坑について調べよう」(8/18・19)、第4回「石炭記念公園(史跡)マップ」(10/2)、第5・6回「ギャラリートーク準備・練習・本番」(11/6・20)、第7回「台湾の炭鉱」(12/4)、第8回「史跡(石炭記念公園)を測ってみよう」(12/18)、第9回「釧路市の炭鉱と博物館」(1/15)、第10回「まとめと発表練習」(1/22)、第11回「成果発表と修了式」(1/29)



**子ども学芸員の声** 「作兵衛さんのことを調べて炭坑のことがわかった。もっと色んな絵を調べてみたい」「台湾や釧路の炭坑の話聞いて面白かった」



### 2 まちなか展覧会

「山本作兵衛コレクション」及び市博物館への市民の関心を高めるため、市内小学校への出前授業やリモート見学(学校博物館)、市内文化施設(博物館、美術館、図書館)が横断的なテーマで連携する事業(3館連携事業)、田川市内ならびに田川市への導線となる会場で展示等を行った。

#### (1) 学校博物館

田川市内の田川小学校、大藪小学校、猪位金学園で、出前授業やリモート博物館見学を実施した。

**児童の声** 「博物館に行ってみたくなった!」「田川の知らないことがわかった!」「石炭に初めて触った!」



## (2) 3館連携事業

市内文化施設(博物館、図書館、美術館)にて、「三・館・楽プロジェクト」と題した「山本作兵衛コレクション」を横断的なテーマとする展示会等を開催し、会期中は3館を巡回するスタンプラリーを実施した(4/27-)。



## (3) 出張展示

市博物館周辺の商店街(12/26)及び駅舎(12/26-1/末)にて、出張展示を行った。展示は、商店街主催のウォーキングイベントにあわせて行っており、市博物館もコースに含まれていたため、商店街・駅舎から市博物館をめぐる参加者でにぎわった。また、田川市への導線となる福岡県庁(5/10-7/2)や北九州空港(10/5-11/14)でも「山本作兵衛コレクション」等の出張展示を行った。



**地元の声** 「商店街と駅は、炭坑を背景とする歴史があり、市博物館にも近いので、今後も巡回できるようなイベントができれば」

## 3 交流キャラバン展

### (1) 交流キャラバン展

「山本作兵衛コレクション」の普及と博物館同士のネットワーキング構築のため、福岡県内5か所(北九州市立自然史・歴史博物館(3/16-4/18)、柳川市民文化会館・柳川市歴史民俗資料館(4/29-5/11)、築上町蔵内邸(6/24-7/20)、九州歴史資料館(7/27-9/26)、大野城心のふるさと館(11/2-12/5)及び台湾(4か所、10/1-12/31)にて展示を行うとともに、市博物館でも開催地の資料を展示して、相互に交流を深めた。



**博物館関係者の声** 「今後も、博物館の交流を続けていきたい」

**台湾からの声** 「日本は炭坑文化の保存に尽力している。田川市の博物館に感謝！」

### (2) 交流講演会

交流キャラバン展にあわせ、田川市学芸員が各開催地で、各開催地の学芸員等が田川市で相互に講演する交流講演会を開催した。また、台湾でも、田川市学芸員がオンラインで現地のシンポジウムで講演を行い、田川市ではオンラインで台湾出身の映画監督によるトークイベントを開催した。



**参加者の声** 「興味がわいたので、コロナが収まったら見学に行きたい」「地元の炭坑の話が聞けてよかった」「田川とのつながりがわかった」「詳しい説明をいただき、知らないことが多くあった」「多岐にわたり、大変興味深い内容でした」「歴史ある文化を相互に大切にできれば」「様々な角度から、筑豊・田川を知る講座をお願いしたい」「このような取組が、今後も続けられることを期待したい」

